

## 不安「感」

どうして不安感というのだろうか。不安感がある | 不安感を与えない、ということは、不安の感覚がある | 不安の感覚を与えないということか。つまり、問題としているのは、不安なことか安心できることか、ではなくて、その感じなわけである。そうではなくて、安心してはならない事態か否かが問題ではないか。感じているかどうかの問題ではないだろう。不安なことか安心なことを正しく見極めなければならない。客観的な根拠と筋道だった思考をもって正しい判断をしなければならない。正しい判断が出来るなら、不安がある | 不安を与えない、とはっきりその根拠と判断の筋道をいえることである。

不安があるとは、しかるべき理由によって安心信頼し得ない、ということである。それでは不安感がない、とはどういうことなのだろうか。感じなければ不安感はないわけである。根拠を見ようとせず真っ当に考えることもない、正当な判断力がないものには、たとえ不安がある事柄にも不安感を抱かない。いっぽう半ノイローゼの心配性は、まさしく安心できる事柄にもやたらにオドオドする。不安があると不安感があるとではかように異なる。

不安感といって感じを問題にするということは、グラグラ揺れて今にも落ちそうな頭上の大石に目を背けて平気でいればよい、ということである。実は安心できない事態でも相手が不安とも感じないならそれでよい、ほっとけばよい、誤魔化してもよい、ということになる。いっぽう筋道だった思考ができない者が不安と感じて騒いだところで何も困ったことは起こらない。根拠と筋道を理性的に示したところで不安感は治まらない。騒ぎを収めるには必要事に向けるべきエネルギーの浪費を迫られる。

不安「感」を与えない類のまやかしを許容してはいけない。きっぱりと、不安がある | 不安を与えない、と言いきろう。不安ではなくて不安感を口にする者は、おそらく自分の中で考えの区別もついていないのではなかろうか。

付；沖縄県の仲井真弘多知事は“安全性が証明され、県民の「不安」が払拭されない限り・・・”と述べた。“「不安感」が払拭されない限り・・・”とは言わなかった。(2012.7.12)

付；野田佳彦首相は衆議院解散時国会で“日本の舵取りをどの「方向感」ですすめてゆくのか”と演説した。“どの「方向」にすすめて・・・”とは言わなかった。(2012.11.16)